



厚木の夜景（春日神社）（撮影 阿部会員）

令和3年 2月号 Vol. 202
(2021年)

発行：令和3年2月13日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <http://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 森島 誠 編集担当者 阿部 啓冊



会員投稿

《坂東三十三観音巡りの思い出》

澤田正弘

だいぶん前になりますが平成9年～11年に夫婦で坂東^{※1}三十三観音巡りをしました。その時の思い出を紹介します。

※1 坂東とはどの地域を指すのか。足柄峠・碓氷峠の坂から東の方である。源頼朝が鎌倉に幕府を開く以前は政治の中心は奈良・京都にあり、一般的に坂東はこれらの坂の東の地方と認識されていた。

最初にこの観音巡りをしようとしたきっかけは、小旅行をしたいがどこか良い所が無いのか探していたところ、新聞広告の坂東三十三カ所観音霊場^{※2}巡りツアーが目にとまり、これなら毎回旅行先を考えなくて済むし、車なら都合のつく日に行けるからと考えたからです。特に観音信仰があったからではありませんでした。最初の決め事は4つあります。

- 1) 必ず夫婦で行く。
- 2) 神奈川・東京・埼玉以外の県は1～2泊の小旅行とし、近辺の観光地も訪れる。
- 3) 証拠写真（記念撮影）を撮る。
- 4) 拝観の証として御朱印をもらう。

※2 坂東三十三カ所観音霊場の成立は鎌倉時代の1233年～1234年頃と推測されている。最初の巡礼はほとんどが修行僧で相当な日数と苦行がともなった。室町時代中期以降になると一般庶民も巡拝するようになった。総旅程は千三百Km。

最初に行ったところは近くにある地元厚木市の第6番長谷寺「飯山観音」です。お参りした後、納経所に朱印帳を持って行ったとき、ちょうど若い女性が習字の練習をしていて、飯上山・大悲殿^{※3}・長谷寺と書いていただきました。

※3 大悲とは観音菩薩の意味である。

次は鎌倉市に行き、第1番杉本寺「杉本観音」から第4番長谷寺「長谷観音」まで4つのお寺をまわりました。「長谷観音」は高さ10m、右手に錫杖を持った金箔の十一面観音はおおらかな表情をしており、私の願いを何でも聞いてもらえるような気がしました。



第1番 杉本寺の御朱印

第 11 番 安楽寺「吉見観音」(埼玉県)

日帰りで 9 番 10 番を巡ったあと 11 番安楽寺を訪れお参りした後、納経所に行ったところ 4 時 30 分を過ぎてしまい御朱印をもらえませんでした。

私のお参りは読経や納経^{※4}は行わずに、お賽銭を投入して両手を合わせて拝んだ後、御朱印をいただくというスタイルです。

※4 納経とは自身で般若心経や観音経を写経してお寺に収め、その受領のしるしに閻魔の宝印を象徴する印(納経朱印)を押してもらうこと。

後日栃木県に行く途中で再度安楽寺を訪れて御朱印を頂きました。「吉見観音」の近くの岩窟つづきの丘陵に有名な吉見百穴^{※5}があり、そこを見学し近くの食堂で昼食をとりました。

※5 吉見百穴は古墳時代後期の群集墳墓である。

第 13 番 浅草寺「浅草観音」(東京都)

ここへ行くと島倉千代子の「東京だヨおっ母さん」の 3 番の歌詞「ここが ここが浅草よ お祭りみたいに賑やかね」を思い出します。いつも混雑しています。縁起によれば 626 年漁師の兄弟が浅草浦に船をこぎ出し、網を下したら聖観音像がかかってきたので、この観音像が浅草寺の秘仏となったそうです。

第 17 番 萬願寺「出流観音」(栃木県)

お寺の境内に宿坊があるので予約して一泊しました。宿泊者 300 名収容だが我々 2 人だけでした。2 人で風呂に入り夕食は 6 時から、野菜を調理した精進料理でした。TV も何もないので 7 時に就寝。翌朝 7 時から 7 時半までは護摩供養^{※6}がありました。お坊さん 5 人に私ら 2 人。私が買った護摩木も加わり煙はモクモクとなりました。8 時に朝食。この観音様はお寺から急坂を 100m 登った舞台造りの奥の院の中の自然のままの鍾乳石で、像高 4m の十一面観音です。この日は伊香保温泉「横手館」泊り。

※6 護摩供養とは密教系(天台宗、真言宗)が行う修行で、護摩壇に供物としての護摩木を投げ入れて焚き上げる。

第 19 番 大谷寺「大谷観音」(栃木県)

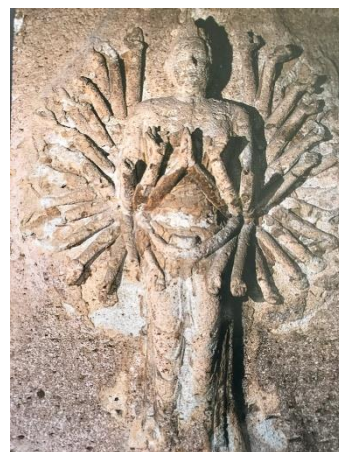
この観音様は壁面の大谷石に彫ってありました。一見蜘蛛の形に見えましたが、810 年弘法大師の作と伝えられる千手観音^{※7}です。千手観音の両脇には釈迦三尊、薬師三尊、阿弥陀三尊も彫ってあり合計 10 体の仏が並んでいました。また 1 万 1 千年前の人骨も展示されています。

※7 坂東三十三観音の種類別内訳は、十一面観音 14、千手観音 10、聖観音 6、十一面千手観音 2、延命観音 1 である。

第 21 番 日輪寺「八溝山」(茨城県)

福島県との県境の八溝山の頂上付近にあり林道を 6km 位走ってやっと到着しました。坂東の札所^{※8}の中では唯一の難所であつたらしく、昔は「八溝知らずの偽坂東」と言われたようです。

※8 札所とは納札をすところ。昔は歌一首を書いた木札を霊場に打ち付けて巡拝した。霊場のことを「札所」、巡拝することを「打つ」といった。



第 19 番 大谷寺の千手観音

第 25 番 筑波大御堂（茨城県）

筑波山頂行きロープウェイ駅の手前にありました。明治維新の廃仏毀釈で七堂伽藍は破壊されて廃寺となりましたが、大御堂だけは昭和 5 年に再建されています。広場で名物の「がまの油」が売られていました。



第 25 番 筑波大御堂での記念写真

第 27 番 円福寺「飯沼観音」（千葉県）

銚子市の中心地にあり JR 銚子駅にも近い。お寺は外壁修理中で外周に足場がかかっています。この日は犬吠埼灯台のすぐ横にある「ホテルなぎさ本店」泊り。風呂は私の大好きなラジウム温泉。翌日は銚子市内の「ヒゲタ醤油」に行き工場見学をさせて頂きました。四端に「ヒゲ」の付いた「田」の文字を商標にしていることで有名です。

第 14 番 弘明寺「弘明寺観音」（神奈川県）

電車で行きました。午前中は横浜桜木町の橋の上で、私もファンである横浜ベイスターズの 38 年ぶりのセ・リーグ優勝パレードを見学、車上に権藤監督、山下ヘッドコーチ、佐々木投手らの顔が見られました。その後、ベイスターズは日本シリーズでも勝ち 38 年ぶりに日本一となりました。午後弘明寺へ。京急弘明寺駅から仁王門をくぐり石段を登ると 1044 年建立の歴史ある本堂が見えてきます。ご本尊の十一面観音は黒色をしたケヤキ材一木造りです。

第 31 番 笠森寺「笠森観音」（千葉県）

観音山の山頂に建つ本堂は四方が舞台になっており、一般に四方懸崖（けんがい）造りといわれ国の重要文化財に指定されています。階段は土足厳禁のためゴム草履に履き替えて登って行くと寺務所があり、拝観料を払って十一面観音に向かって合掌しました。この日は養老温泉「養老館」に宿泊しました。



第 33 番 那古寺の御朱印

第 33 番 那古寺「那古観音」（千葉県）

仁王門、阿弥陀堂、多宝塔と進むと瓦葺の本堂となります。このお寺は館山市街の高台にあり館山湾の弓なりの砂丘にゆるやかに白波が打ち寄せていました。なんとか最後の第 33 番「結願所」までまわる事が出来ました。長い道中でした。

坂東三十三観音巡りが終わると長野市にある善光寺と上田市にある北向観音（きたむきかんのん）にお礼参りするの長い伝統ということでお参りしました。北向観音は善光寺に向かって立っています。妻は上田市の出身であり何度も泊っている別所温泉「別所観光ホテル」に宿泊した翌日の朝に、近くに住む高校の同級生とホテルのロビーで久しぶりに再会したようです。

私の人生、今までつらいこと、悲しいことがいっぱいありましたが、この観音巡りで数多くの観音様に会い、お祈りしたことで、なんとか乗り越えてこられたと思います。健康で平穏な老後をご過ごしていただけるのも観音様のおかげです。

南無観世音菩薩 ありがとうございます。

最近の活動

日 時	場 所	内 容	参 加 者
1月の行事及び2月役員会は中止となりました			

令和3年2月・3月 行事予定

	日 時	行 事	会場・場所	内 容	申 込 先
2 月	13日（土）の定例会・勉強会は中止となりました。				
	19日（金）の「かながわガイド協議会幹部研修会」（小田原）は、2022年1月または2月頃に延期となりました。				
3 月	4日（木） 13:30～16:30	ガイド養成講座	保健福祉 センター		サークルスクエア
	5日（金） 13:30～16:30				
	6日（土） 13:30～16:30				
	6日（土） 09:00～12:00	役 員 会	アミューあつぎ		サークルスクエア
	13日（土） 10:00～12:50	定例会・勉強会	アミューあつぎ	定員 22名	サークルスクエア

お願い 行事予定が決まりましたら、阿部あてメールでご連絡下さい。

提出期限は定例会の1週間前（編集会議と印刷のため）

編 集 後 記

巻頭の写真は温水の春日神社近くで撮った厚木市の夜景と月です。夜の厚木市内の明かりに負けずに一面を照らす月の明かりでした。

新型コロナで思うような活動ができない昨今ですが、まるでみんなを励ましているようです。

2月18日には月と火星が接近し三日月のすぐ上に火星が輝く様子が見られるようです。少し寒い季節ですが、夜の空を眺めて気分転換はいかがでしょう。

編集委員 阿部 啓冊 澤田 正弘 前澤 宣子